

5 認知症に関すること(上天草市認知症ケアパス)



(1) 相談先・医療機関など

①相談先

上天草市の認知症施策について (HP)

相談先	住 所	電話番号
上天草市地域包括支援センター	松島町合津7915-1 高齢者ふれあい課内	0969-28-3378
上天草市大矢野在宅介護支援センター	大矢野町登立8531	0964-56-0119
上天草市姫戸在宅介護支援センター	姫戸町姫浦3055-106	0969-58-3633
上天草市龍ヶ岳在宅介護支援センター	龍ヶ岳町高戸1419-19	0969-62-1124
上天草市認知症地域支援推進員	大矢野町中11582-1 社会福祉協議会大矢野町支所内	0964-56-3470



②認知症サポート医

熊本県庁HP

認知症患者の診療に習熟し、かかりつけ医への助言その他支援を行い、専門医療機関や地域包括支援センター等への連携の推進役となる医師のこと。

氏 名	勤務先	電話番号
脇田 富雄	上天草市立上天草総合病院	0969-62-1122

③かかりつけ医認知症対応力向上研修 (ステップアップ編) 修了者

(名簿公表同意者・令和7年3月31日現在)



熊本県庁HP

熊本県が、かかりつけ医が適切な認知症診断の知識・技術や家族・介護者への支援の方法を習得することにより、認知症サポート医や専門医療機関、地域包括支援センター等と連携し、認知症の発症初期から、医療と介護が一体となった支援体制を構築することを目的に実施。

氏 名	医療機関	電話番号
江頭 翔	中村医院	0964-56-0003
猿渡 和典	介護老人保健施設 ほんごう苑	0964-56-5110

④歯科医師向け認知症対応力向上研修修了者 (令和7年5月時点)



熊本県庁HP

熊本県が、県内の歯科医師に対し、認知症の人やその家族を支えるために必要な基礎知識や関係機関との連携の重要性等の知識を習得する研修を行うことで、歯科医師による認知症の早期発見や認知症の人の生活環境の維持、向上を推進することを目的に実施。

氏 名	医療機関	電話番号
嶽本 政久	嶽本歯科医院	0969-56-2648
竹中 誠也	竹中歯科医院	0969-58-3188

⑤くまもとオレンジドクター・くまもとオレンジナース



熊本県庁HP

熊本県が、認知症になっても病院で安心して適切なケアを受けられるよう、各病院において研修を実施する医師、看護師を「くまもとオレンジドクター」「くまもとオレンジナース」として認定している。在籍については、各病院にお尋ねください。

⑥熊本県認知症疾患医療センターの指定状況（令和7年4月～）



熊本県庁HP

認知症の早期発見・診療体制の充実、医療と介護の連携強化、専門医療相談の充実を図ることを目的に、県内の10圏域すべてに地域の拠点となる「認知症疾患医療センター」を設置している。

	相談先	住所	電話番号
基幹型	熊本大学病院	熊本市中央区本荘1-1-1	096-373-5784
地域 拠点型	山鹿回生病院	山鹿市古閑1500-1	0968-44-2338
	菊池病院	合志市福原208	096-248-8012
	くまもと青明病院	熊本市中央区渡鹿5-1-37	096-366-2308
	くまもと心療病院	宇土市松山町1901	0964-22-1106
	天草病院	天草市佐伊津町5789	0969-23-6111
	荒尾こころの郷病院	荒尾市荒尾1992	0968-62-0838
	阿蘇やまなみ病院	阿蘇市一の宮町宮地115-1	0967-22-7600
	益城病院	上益城郡益城町馬水123	096-286-3611
	平成病院	八代市大村町720-1	0965-65-8001
	人吉こころのホスピタル	人吉市下城本町1501	0966-22-7503
連携型	海もみえるココロの病院	水俣市袋705-14	0966-63-5196

※まずは、かかりつけの医師に相談や問い合わせすることをお勧めします。

⑦その他の相談先

相談先	住所	電話番号
熊本県認知症コールセンター （「公益社団法人認知症の人と家族の会 熊本県支部」に委託）	※65歳未満で発症する「若年性認知 症」の相談も可。 9時から午後5時まで 毎週水及び年末年始は定休日	096-355-1755  熊本県庁HP
公益社団法人 認知症の人と家族の会	※午前10時～午後3時まで ※毎週土・日・祝日は定休日	0120-294-456

（2）くまもとオレンジ大使（認知症本人大使）



熊本県庁HP

認知症の人ができる限り住み慣れた地域のよい環境で自分らしく暮らし続けることができる社会の実現のため、認知症の人本人の想いや活動を発信する「くまもとオレンジ大使（認知症本人大使）」を任命し、認知症への社会の理解を深めるための普及啓発や本人発信のための取組。

（3）ボランティア

①認知症サポーター

認知症についての正しい知識を持ち、認知症の人や家族を応援し、誰もが暮らしやすい地域をつくっていくボランティアです。（27ページ参照）

②認知症協力応援隊員

認知症サポーター養成講座を受講した後、認知症協力応援隊員養成研修を修了したボランティアです。（32ページ参照）

(4) 集いの場

①認知症カフェ（通称『オレンジカフェ』）

認知症の人やその家族が、地域の人や専門家と相互に情報を共有し、お互いを理解し合うことが目的です。

認知症の方を中心に集まることで、認知症の方の居場所が確保されるとともに、認知症に関する悩みや介護に関する情報交換の場となり、社会とつながることができます。（47ページ資料1参照）

カフェ名	場所	開催日時
オレンジカフェ大矢野	大矢野老人福祉センター	毎月第2・4木曜 10時～11時30分
なの花カフェ	上天草棋友会	毎月第2・4水曜 10時～11時30分
オレンジカフェ姫浦	翔洋苑地域交流スペース	毎週火曜 10時～11時30分
きんぎょカフェ	樋島老人福祉センター	毎月第3水曜 10時～11時30分

※参加費200円

問合せ先 上天草市社会福祉協議会 大矢野町支所 0964-56-3470

②認知症の人の介護者のつどい ※無料

認知症の人の介護者同士の意見交換やリフレッシュを目的に開催します。

2か月に1回各町を巡回します。

時間 10時～12時 ※参加費無料

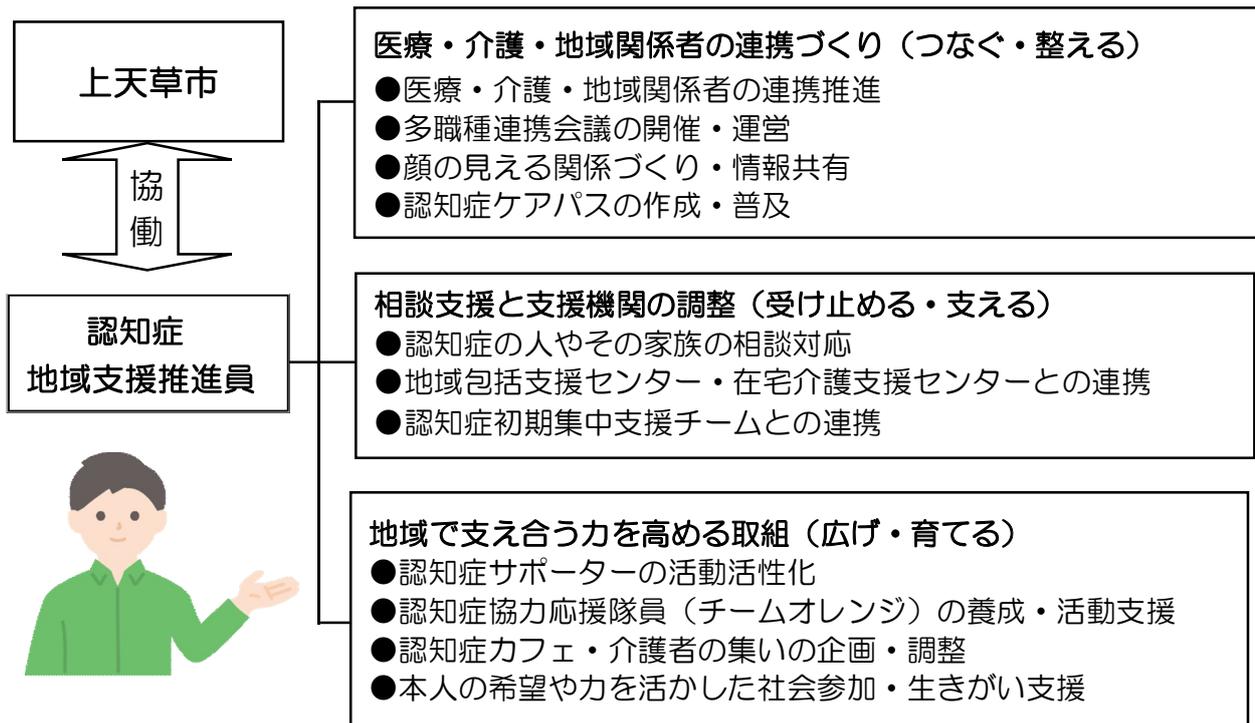
問合せ先 上天草市社会福祉協議会 大矢野町支所 0964-56-3470

(5) 認知症高齢者等見守りネットワーク

お出かけして自宅等に戻れなくなる可能性のある高齢者を事前に把握し、もしもの時に早めに捜索できるようネットワークの構築・運用をします。また、普段からの見守り体制の構築を図ります。協力事業者として見守りに御協力頂ける事業者・団体を募集しています。（48ページ資料2参照）



(6) 認知症地域支援推進員



(7) 認知症初期集中支援チーム

認知症の人やその家族に対して、早めの診断や、適切な医療サービス・介護サービス等の利用の支援を行います。医療・介護・福祉の専門職で構成されたチーム員が自宅へ訪問し、一定期間（おおむね6か月以内）集中的に支援します。（上天草市地域包括支援センター内に設置）（50ページ資料3参照）

(8) 認知症ケアパス

認知症発症予防から人生の最終段階まで、認知症の容態に応じ、相談先や、いつ、どこで、どのような医療・介護サービスを受ければいいのか、これらの流れをあらかじめ標準的に示したものです。（51～54ページ資料4参照）

(9) 安全運転窓口



熊本県警察

熊本県警察では、加齢等に伴う身体機能の低下等のため自動車等の安全な運転に不安のある高齢ドライバーやそのご家族、身体の障害や一定の症状を呈する病気等による症状のため自動車等の安全な運転に支障のある方等が、担当の職員に相談することができる窓口を設けています。

- 全国统一 専用相談ダイヤル 「#8080」
- 運転免許課安全運転相談係
096-233-2229（直通）、096-233-0110（音声ガイダンス1番）
受付日：月曜～金曜 受付時間：午前9時～午後4時（要予約）

警察庁・熊本県HP参照

～ 認知症に関わる人が気軽に話せる憩いの場 ～



オレンジカフェ

● オレンジカフェ（認知症カフェ）とは・・・

認知症の方やそのご家族、地域住民、専門員など誰もが集える場所で、気軽に悩み相談や世間話などができるコミュニケーションの場のことです。

オレンジカフェ大矢野



場 所:大矢野老人福祉センター
開催日:第2・4木曜日
時 間:10:00～11:30
参加費:200円

なのはなカフェ(松島)



場 所:上天草棋友会(松島バスセンター近く)
開催日:第2・4水曜日
時 間:10:00～11:30
参加費:200円

オレンジカフェ姫浦



場 所:翔洋苑交流スペース
開催日:毎週火曜日
時 間:10:00～11:30
参加費:200円

きんぎょカフェ(樋島)



場 所:樋島老人福祉センター
開催日:毎月第3水曜日
時 間:10:00～11:30
参加費:200円

● 問い合わせ先 ●

上天草市社会福祉協議会 大矢野町支所 0964-56-3470

上天草市見守りネット

(上天草市認知症高齢者等見守りネットワーク事業)

どこシル伝言板[®]とは？

衣服や持ち物等に貼ったQRコードを読み取ると、インターネット上の伝言板が表示されます。QRコードの読み取り時や伝言板への書き込みがあった際など、家族等へ瞬時にメールが送信されます。伝言板のやりとりでは個人情報を開示することなく“発見～保護～家族等への引渡し”まで安心、安全、迅速に行えます。



どこシル伝言板[®]の特徴

耐洗ラベルと蓄光シール

家庭用洗濯機で200回以上の耐久性がある耐洗ラベル。反射材と違いライトが無くても、自ら光を蓄めて放つ蓄光シールをご用意。



引取りまでのご本人のストレス軽減

事前に身体的特徴や既往症、保護時に注意すべきことなど登録しておくことで、発見者がQRコードを読み取った際、対処方法がわかるようになっています。引取りまでの間、ご本人がストレスなく安楽に過ごしていただくことができます。

発見～引取りまで迅速に

発見者によるQRコードの読み取り、現在位置の送信やご本人の状況の入力があれば、瞬時に家族等へメールが送信されます。夜間でも発見通知が来るため、24時間365日やりとりが可能です。

ご本人への声かけをスムーズに

ラベルやシールにはQRコード・識別番号・自治体名とロゴマークが記載されています。認知症の方だと気づいてもらいやすくなり、発見者が声をかけるきっかけになります。

特別なアプリ等は必要なし

特殊な装置やアプリ等は必要ありません。登録～伝言板のやり取りまでスマートフォンさえあればすべてのやりとりが行えます。

個人情報は表示されません

伝言板を使用してやりとりするので、個人を特定する情報は必要としません。氏名や住所、連絡先の記載は不要なので、個人情報の漏洩の心配はありません。

※QRコードは株式会社デンソーウェーブの登録商標です

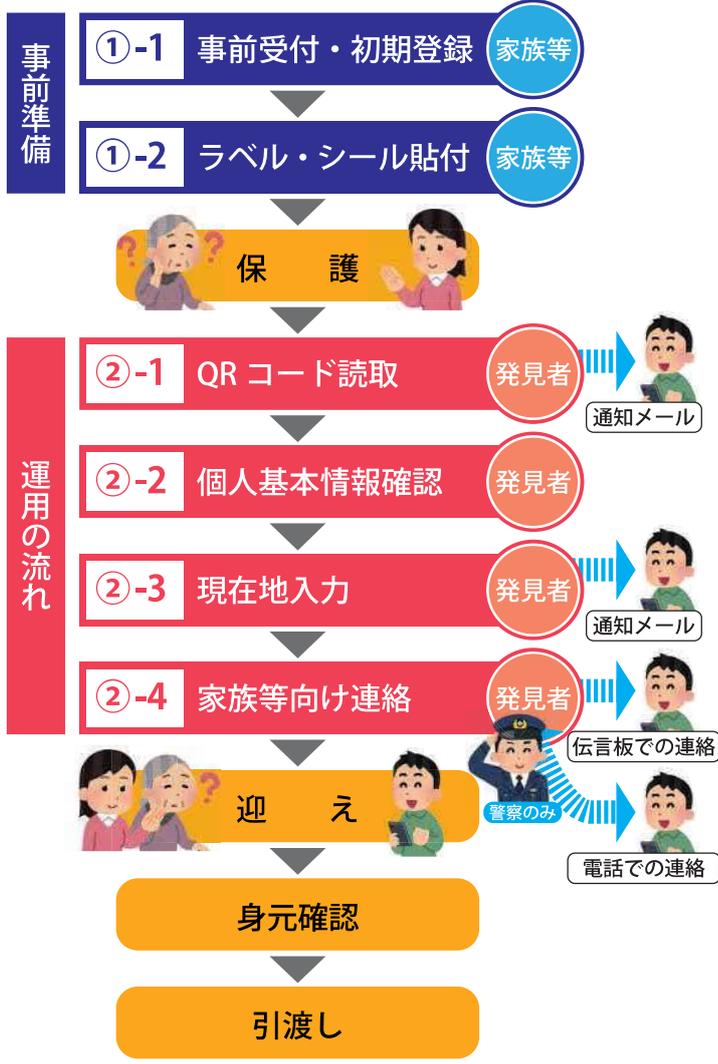
お問い合わせ先

上天草市 健康福祉部
高齢者ふれあい課 地域包括支援係
電話：0969-28-3378



どこシル伝言板®

登録から行方不明→保護→引渡しまでの流れ



どこシル伝言板®

効果的な貼付例

耐洗ラベル(アイロンで貼り付けられるもの)



蓄光シール(アイロン不可のもの)



ひどい物忘れや認知症の困りごとなど まずはご相談ください

上天草市認知症初期集中支援チームが支援します

認知症初期集中支援チームとは？

認知症初期集中支援チームは、認知症の人や認知症の疑いのある人、その家族のもとに訪問して、認知症についての困りごとや心配ごとなどの相談に対応する、認知症の専門家たちによって構成されたチームです。

認知症は誰もがなる可能性のあり、早めの対応が必要です。ひとりで抱え込まず、まずは上天草市地域包括支援センターやお住まいの地域の在宅介護支援センターにご相談下さい。

認知症初期集中支援チーム ってどんなことをするの？

認知症の人やその家族に対して、認知症どうか診断したり、適切な医療サービスや介護サービスを紹介したりするために、チーム員が自宅に訪問して一定期間（おおむね6か月以内）集中的に支援します。

対象となる人は？

40歳以上の自宅で生活している認知症の人や認知症が疑われる人で、

- 認知症の診断を受けていない人や治療を中断している人
- 適切な医療サービスや介護サービスを受けていない人
- 医療サービスや介護サービスを利用していても症状が悪化して対応に悩んでいる人

などが対象となります。

チーム員は どんな人たちなの？

医療・福祉・介護の専門家たちによって構成されています。

- 認知症サポート医 ●保健師
- 介護福祉士 ●社会福祉士

支援チームは、かかりつけ医、各町の在宅介護支援センターや認知症地域支援推進員と連携して対応します。

どうして 「早めの対応」が必要なの？

認知症は、現在完治が難しい病気とされていますが、早期に発見して適切な処置をすれば、その人らしい充実した暮らしを続けることができるからです。

メリット1 早期治療で改善も期待できる
認知症の原因になる病気はさまざまですが、早期に発見し早期に治療をはじめると、改善が期待できるものもあります。

メリット2 進行を遅らせることができる
認知症の症状が悪化する前に適切な治療やサポートを行うことによって、その進行のスピードを遅らせることができる場合があります。

メリット3 事前にさまざまな準備ができる
早期発見によって、症状が軽いうちに本人や家族が話し合い今後の治療方針を決めたり、利用できる制度やサービスを調べたりする「認知症に向き合うための準備」を整えることができます。

上天草市認知症ケアパス

- ①軽度認知障害（MCI：まだ認知症ではない時期）
②症状があっても日常生活は自立している状態

本人の様子

- 最近の出来事を忘れてたり、約束の日時を間違えたりすることがある。
- よく知っている物の名前が出てきづらい、好きな趣味や集まりに行くのがおっくうで休みがちになる。
- 金銭管理や買い物など日常生活は自立しているか、ミスはあってもおおむね自立している。

※この時期はうつ病と診断されることもある。（本人も周囲も気づきにくい。）

本人の思い

「ちょっと忘れやすくなったけど、まだ自分でできることを続けたい。」



本人へのアドバイス

- 地域の人とのつながりをもつ。
- 生活習慣病の予防・治療を大事にする。
- 生活リズムを整え、水分補給を忘れずに。
- 今後の生活設計について考えておく。

家族の対応ポイント

- 年齢のせいにはせずに、早めにかかりつけ医や相談窓口に相談する。
- 認知症について学ぶ機会をもつ。
- 消費者被害に注意する。
- 家族の連絡先をわかるようにしておく。

家族の思い

「本人の気持ちを大切にしながら支えたい。地域の力を借りられると心強いです。」

主な資源や支援体制など

相談	地域包括支援センター（高齢者ふれあい課）、在宅介護支援センター、認知症初期集中支援チーム、かかりつけ医、認知症疾患医療センター、認知症地域支援推進員（社協）、熊本県認知症コールセンター、民生委員、区長
予防・改善	かよいの場、あっぷあっぷさろん、介護予防講座、健診
運動	スパ・タラソ、大矢野運動公園、アロマ
交流・役割・仕事	老人福祉センター、老人クラブ、生涯学習活動、認知症カフェ、シルバー人材センター
安否確認・傾聴	小地域ネットワーク、配食、認知症協力応援隊員
介護保険利用相談	地域包括支援センター、ケアマネジャー
生活支援	家事サポート（民間）、配食
住まい	有料老人ホームなど
家族支援	家族介護者教室、家族介護者交流事業、認知症カフェ、認知症介護者のつどい、地域包括支援センター、ケアマネジャー
もしもの時	消費生活センター、無料弁護士・司法書士相談（市）、警察

③認知症が軽度の時期 ～物忘れが目立ち始めるが、日常生活は自立～

本人の様子

- 同じ話を何度もする。時間や場所がわかりにくくなる。
- 財布や通帳など大事なものをなくすことがある。車をぶつけることが増える。
- 料理の段取りや家計の管理などに支障が出てくる。料理の味が変わったと家族に言われる。買い物に行くと同じものばかり買ってくる。

本人の思い
「失敗が増えて不安。
でも、まだ自分らしく暮らしたい。」



本人へのアドバイス

- 生活リズムを整え、水分補給を忘れずに。
- かかりつけ医にアドバイスを求め、専門医を紹介されたら受診してみる。
- 介護のサポートを受けることを考える。

家族の対応ポイント

- 家族だけで支えるのではなく、周囲に理解を求めて見守る人を増やす。
- かかりつけ医や専門医に相談する。
- 介護保険サービスの利用を検討する。
- 火の不始末など事故に備えて対策をとっておく。

家族の思い
「まだ自立しているけど、
ちょっとした見守りや声かけが
あると安心です。」

主な資源や支援体制など

相談	地域包括支援センター（高齢者ふれあい課）、在宅介護支援センター、認知症初期集中支援チーム、かかりつけ医、認知症疾患医療センター、認知症地域支援推進員（社協）、熊本県認知症コールセンター
予防・改善	かよいの場、あっぷあっぷさろん、介護予防講座、健診
運動	スパ・タラソ、大矢野運動公園、アロマ
交流・役割・仕事	老人福祉センター、老人クラブ、生涯学習活動、認知症カフェ、シルバー人材センター
安否確認・傾聴	小地域ネットワーク、配食、認知症協力応援隊員
介護保険利用相談	地域包括支援センター、ケアマネジャー
介護	訪問系・通所系サービス、短期入所など
住まい	介護を受けられる有料老人ホーム、グループホームなど
家族支援	家族介護者教室、家族介護者交流事業、認知症カフェ、認知症介護者のつどい、地域包括支援センター、ケアマネジャー
金銭管理	地域福祉権利擁護事業（社協）、成年後見制度
もしもの時	消費生活センター、無料弁護士・司法書士相談（市）、警察署

④認知症が中等度の時期 ～日常生活に誰かの見守りや手助けが必要～

本人の様子

- 日にち、曜日、季節感がわかりにくくなる。季節にあった服が選べない。
- 時間や場所がわからなくなることが増える。自宅から離れた所で道に迷う。
- 火の不始末や鍋焦がしが増える。薬やお金の管理ができなくなる。
- 家族とのトラブル、入浴を嫌がる、昼夜逆転、攻撃的な行動、焦り・不安。
- 認知症で介護が必要となる。

本人の思い
「できないことが増えて心細い。わかってくれる人がいると安心。」

本人へのアドバイス

- 生活リズムを整え、水分補給を忘れずに。
- 医療や介護のサポートを受ける。

家族の対応ポイント

- 認知症を隠さず、身近な人たちに伝え、理解者や協力者をつくる。
- 頑張りすぎない介護をこころがける。
- 同じように介護する仲間をつくる。
- 医療や介護サービスを上手に利用する。

家族の思い
「家族だけでは難しいこともあります。力を貸してくれると本当に助かります。」



主な資源や支援体制など

相談	地域包括支援センター（高齢者ふれあい課）、在宅介護支援センター、認知症初期集中支援チーム、かかりつけ医、認知症疾患医療センター、認知症地域支援推進員（社協）、熊本県認知症コールセンター
予防・改善	かよいの場、あっぷあっぷさろん、介護予防講座
運動	スパ・タラソ、大矢野運動公園、アロマ
交流・役割・仕事	老人福祉センター、老人クラブ、認知症カフェ
安否確認・傾聴	小地域ネットワーク、配食、認知症協力応援隊員
介護保険利用相談	地域包括支援センター、ケアマネジャー
介護	訪問系・通所系サービス、短期入所、訪問看護、薬の相談・管理グループホーム、老人保健施設、特別養護老人ホームなど
家族支援	家族介護者教室、家族介護者交流事業、認知症カフェ、認知症介護者のつどい、地域包括支援センター、ケアマネジャー
金銭管理	地域福祉権利擁護事業（社協）、成年後見制度
もしもの時	消費生活センター、無料弁護士・司法書士相談（市）、警察署

⑤ 認知症が重度の時期 ～身の回りのこと全般に介護が必要～

本人の様子

- 直近のことだけでなく、古い記憶もあいまいになる。家族がわからなくなる。
- 近所でも道に迷ったりする。
- 服をうまく着れなくなる。身体をうまく洗えなくなる。排泄の失敗が増える。
- 言葉によるコミュニケーションが難しくなる。
- ほぼ寝たきりの状態となる。

本人の思い
「言葉にできないけど、心の中では『ありがとう』と思っている。」



家族の対応ポイント

- がんばり過ぎない介護をこころがける。
- 医療や介護サービスを上手に利用する。
- 介護する家族の健康や生活も大切にする。
- 同じように介護する仲間をつくる。
- 自分の気持ちを話せる場所を作る。
- 今後のことについて検討し、必要に応じて施設の情報収集などをする。
- 人生の最期をどう迎えるか、早い段階で医師などと話しておく。

家族の思い
「一緒に穏やかな時間を過ごしたい。地域の力を借りられると心強いです。」



主な資源や支援体制など

相談	地域包括支援センター（高齢者ふれあい課）、在宅介護支援センター、認知症初期集中支援チーム、かかりつけ医、認知症疾患医療センター、認知症地域支援推進員（社協）、熊本県認知症コールセンター
介護保険利用相談	地域包括支援センター、ケアマネジャー
介護	訪問系・通所系サービス、短期入所、訪問看護、薬の相談・管理グループホーム、老人保健施設、特別養護老人ホームなど
家族支援	家族介護者教室、家族介護者交流事業、認知症カフェ、認知症介護者のつどい、地域包括支援センター、ケアマネジャー
金銭管理	成年後見制度